

令和7年4月8日

保護者様

インフルエンザによる出席停止の扱いについて

群馬大学共同教育学部附属小学校

校長 足達 哲也

お子さんは、インフルエンザのため、学校保健安全法第19条により、他の人に感染させる恐れのある期間は出席停止とします。インフルエンザの出席停止期間の基準は次のとおりです。

＜インフルエンザの出席停止期間の基準＞

発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日（幼児にあっては3日）を経過するまで

インフルエンザと診断を受けた場合は、十分療養し、回復してから登校するようにしてください。また、登校にあたっては、医師の指導のもと、保護者の方が以下の「インフルエンザにおける療養報告書」を記入し、学校へ提出をお願いします。

保護者が記入

学校長様

インフルエンザにおける療養報告書

____年 ____組 氏名

- 1 診断を受けた医療機関：_____
- 2 診断日：令和 ____年 ____月 ____日（診断型：A型 B型 不明）※いずれかに○をつけてください。
- 3 登校再開日：令和 ____年 ____月 ____日

（登校再開には以下の出席停止期間の基準1と2の両方を満たす必要があります。）

※下記に「発症日」と「解熱した日」を記入してください。

出席停止期間の基準	
1	発熱等の症状が出た日（発症日）を0日とし、翌日から数えて5日を経過している。 ⇒ 発 症 日 ： ____月 ____日
2	解熱した日を0日とし、翌日から数えて2日（幼児にあっては3日）を経過している。 ⇒ 解熱した日 ： ____月 ____日

上記のとおり相違ありません。

令和 ____年 ____月 ____日 保護者氏名 _____（自署）

保護者 様

インフルエンザにおける療養報告書の提出について

群馬県医師会
群馬県教育委員会

群馬県では、インフルエンザにかかり出席停止となった児童生徒が登校を再開する際には、医師の治癒証明書を送っていただいていたが、学校への提出書類を保護者が記入する「インフルエンザにおける療養報告書」に変更いたします。なお、扱いに変更が生じた際には、改めてお知らせいたします。

インフルエンザと診断された際の対応・手順

- (1) 受診時、医師に登校可能予定日を確認
- (2) 速やかに学校に報告
- (3) 「インフルエンザにおける療養報告書」に、医師と確認した「発症日」を記録
- (4) 検温を定期的に行い、「解熱した日」を確認して記録
- (5) 回復し、出席停止期間の基準を満たしたら、「インフルエンザにおける療養報告書」を持って登校し、学校に提出

[参考] インフルエンザの出席停止期間の基準（学校保健安全法施行規則第 19 条）

「発症した後 5 日を経過し、かつ、解熱した後 2 日（幼児にあっては 3 日）を経過するまで」

- ※ 「発症した後 5 日」とは、発症した日（発熱等の症状が出た日）を 0 日とし、翌日を 1 日目として、その日から数えて 5 日を経過した日となります。
- ※ 「解熱した後 2 日（幼児にあっては 3 日）」とは、解熱した日を 0 日とし、翌日を 1 日目として、その日から数えて 2 日（幼児にあっては 3 日）を経過した日となります。

出席停止期間のめやす表

発症後日数		0（発症日）	1	2	3	4	5	6	7	8 日目	
例 1	発症から 1 日目に 解熱した場合	発熱	解熱					登校可能			
例 2	発症から 2 日目に 解熱した場合	発熱		解熱							
例 3	発症から 3 日目に 解熱した場合	発熱			解熱						
例 4	発症から 4 日目に 解熱した場合	発熱				解熱					
例 5	発症から 5 日目に 解熱した場合	発熱					解熱				

※「発症した後 5 日」、「解熱した後 2 日（幼児にあっては 3 日）」のどちらか一方のみの基準を満たした状態では登校再開とはなりません。登校再開には、両方の基準を満たす必要があります。